

大会派遣・研修報告書	
1. 大会・研修会	第1回全日本社会人バスケットボール選手権大会
2. 研修期間	平成31年3月15日(金)～17日(日)
3. 派遣者	片岡瑞季(島原地区)
4. 日程	<p>15日(金) 移動 島原～鳥取 16:00～開講式 16:10～講義「3POについて」講師 久保裕紀氏(東京都) 17:30～実技</p> <p>16日(土) 16:30～女子1回戦 VEAT(東海2位)vs 東海クラブ(関東4位) CC:谷地温(本部) U1:高嶋憲彰(鳥取) U2:片岡瑞季(長崎)</p> <p>17日(日) 10:30～女子2回戦 石川教員(北信越1位)vs 宮城クラブ(東北3位) CC:小谷将夫(高知) U1:梶崇司(栃木) U2:片岡瑞季(長崎) 移動 鳥取～島原</p>
5. 研修概要・内容	<p>○講義(70分)※2月チャンピオンシップ群馬大会の内容 Bリーグでの映像クリップを交えながら当たり前のことを再度確認</p> <p>1. 3vs2 3Pのアテンプトに対してのピーク ① 必ず確認できているとは限らないという前提 ・パートナーのエリアで何らかの状況で見えていない場合 ・それまでに何かがあってノイズが入っていた場合 等 それに対して、見たもの、確認できたものは、情報としてしっかりと示す習慣をつける ※ショットの際オープンルックになったらフラッシュ ② Bリーグではいつでも確認できる(IRS) 1点少ないか多いかで、トップリーグでは個人の給料へ、チームは成績へ影響がでるくらい大事だということを理解しておく(普段のゲームでも) ・例えば EOQ 時に、 トレイル・・・スクリーン、ファウル、3vs2の確認で忙しい時 センターとリードは何が協力できるか ※その一方で、自分が確認できなかったものについては憶測で示すことをしないのも重要(トラブルの原因)</p> <p>2. SCREEN・RESCREEN ①スクリーンのプレイの見方 表をどちらのレフリーが見て、裏をどちらのレフリーが見るか(プライマリーの理解) check-in(受け手側) check-out(送り出す側) ②スクリーンは1回だけではない(リスクリーン) プライマリーを伸ばして拡大していくこともある 繰り返されるスクリーンに対してアングルを確保していく(協力)</p> <p>映像より オンボール・スクリーンからのサドンショット シューターはスクリーンを使ってセンター側の表になるケース(トレイルからはクローズになるケース) トレイルはスクリーン・シューターの確認・プロテクトシューターとファウル(FLOOR UP)</p>

LANDING)

センターはオープンルックのためピーク&フラッシュ

3. Communication

コミュニケーションには2つある

- ① 自分もっている正しい情報はパートナーに伝え、その場で共有(アシスト)
- ② パートナーから確認が欲しい時、意見を聞きたい時は自分からコミュニケーションをとる(セカンドオピニオン)

・例えば同じファウルを判定した時

中身が違うこともあり得るので、自分もっている情報は必ず言葉に出して共有すること(CCM)

○実技研修(90分)※鳥取県の高校生によるモデルゲーム

研修クルー:武田亜沙美(秋田) 坂美佑紀(茨城) 片岡瑞季(長崎)

1. 3vs2→オールコートを使い、ショットに対してオープンルックになったレフリーもピークする
2. SCREEN→ハーフコートを使い、スクリーンに対してのプライマリーとアングルの確認

【16日、17日のゲーム】

(PGC)

- ・メカニクスのベーシック
- ・ローテーションのタイミング、
- ・タイマー管理(テーブル管理)
- ・OBB、3vs2
- ・女子のSCREEN

処置ミスは何があってもゼロにすること、そのためにもっている情報は遠慮せずに出し合いましょう、ということでゲームに入りました。

【改善点】

- ・ルーズボールになった時の対応→見すぎてしまう時があるので、早い段階で決断をすること
- ・EQQでのタイマーへの強い意識
- ・POCはどこなのか正確に示すこと
- ・インパクトへの判定

6. 所感

全国各地から上級と上級を目指す方が参加されており、普段トップリーグを担当されている方や、力強いレフリーをする方がいて、とても刺激のある3日間でした。また、同世代の女性レフリーが全国大会の男子のゲームをCCで担当するのを見て、自分もこうなりたいという思いが強くなりました。

大会前の講義でそれぞれが理解を深め、ゲームに臨むことができました。理解はしていても実践する習慣がついてなければ、コート上で発揮することはできないと思います。普段から高い意識を持ち、新しい情報を早く取り入れ実践することを、これからのレフリー活動で習慣づけていきたいと思います。

最後になりましたが、ご指導いただきましたJSB講師の皆様、お世話になりました鳥取県関係者の皆様、本大会に派遣いただきました長崎県バスケットボール協会の皆様にお礼申し上げます。